

済生会小樽病院看護部キャリア開発ラダー評価表兼認定証 (レベルⅢ)

承認者 課長	認定者 次長

A できている
B 時々できている
C ほとんどできていない

所属 () 氏名 ()

レベル毎に求められる役割	チームにおいてリーダーシップを発揮する		評価者	
	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する			
	レベル毎の定義	評価内容		自己評価
レベル毎の目標	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる			
ニーズをとらえる力	1	診療記録など決められた枠組みに沿った情報収集だけでなく、個性性を踏まえ、多職種からの情報も得て、患者にとって必要な情報収集を行うことができる	A B C	A B C
	2	正確なフィジカルアセスメントができる	A B C	A B C
	3	情報収集をもとに、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面のあらゆる情報から総合的に患者をとらえ、優先度の高いニーズをとらえることができる	A B C	A B C
	4	患者の状態に合わせて、標準的な観察項目に関する観察ができるだけでなく、各項目について観察する意味と観察項目間の関連を理解し、必要に応じて観察項目を追加したり、異常値の出現時に対処ができる	A B C	A B C
レベル毎の目標	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する			
ケアする力	1	患者の入院前からの習慣についての情報を考慮した生活行動援助を計画・実践することができる	A B C	A B C
	2	患者に対して指導をする場合、患者の生活習慣や価値観、希望などを考慮して説明することができる	A B C	A B C
	3	患者のニーズを的確にとらえられることで、複数の患者を受けもつ中で、優先順位を正しく判断し、ケアを実践できる	A B C	A B C
	4	急変時には落ち着いて対応し、家族(または患者を取り巻く人々)等に配慮することができる	A B C	A B C
レベル毎の目標	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる			
協働する力	1	患者の個別的なニーズに対応するため、関係者と協力し多職種連携を進める。患者の現在ある状況をとらえ、必要な職種がわかり、協力を求めることができる	A B C	A B C
	2	入院時から、退院後の生活場所について、多職種に提案する等の調整を行うことができる	A B C	A B C
	3	協働する看護師に積極的に情報共有することができる	A B C	A B C
	4	治療方針や検査結果、ケアの内容を多職種で共有し意見を聞くことができる	A B C	A B C
	5	定期的なカンファレンスだけでなく、必要なタイミングを見極めてカンファレンスを開催することができる	A B C	A B C
	6	患者や家族が治療に協力できる工夫を行うために、カンファレンスに参加できるように働きかけることができる	A B C	A B C
レベル毎の目標	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる			
意思決定を支える力	1	療養の場や治療・検査について、選択肢の特徴が説明でき、患者や家族(または患者を取り巻く人々)に提案するなどして意思決定を支えることができる	A B C	A B C
	2	患者と家族にとって、何が大事なのかという価値観、生き方、意向を引き出し、それぞれの気持ちを聞くことができる	A B C	A B C
	3	患者と家族、両者の意向が異なる場合においても、両者の思いを理解し、患者と家族の現在ある状況を多職種に代弁することができる	A B C	A B C
	4	患者と家族がそれぞれ個人の中に持つ複数の思いや気持ち、価値観に寄り添うことができる	A B C	A B C
	5	患者の訴えを表面的に受け止めず、思い込みではない判断ができる	A B C	A B C
	6	倫理綱領と実践を結びつけて考え、倫理的行動がとれる	A B C	A B C
レベル毎の目標	マニュアルに基づき、状況に応じて行動し、リーダーシップを発揮できる			
安全管理	1	医療安全、院内感染防止策マニュアルに基づき、状況に応じて安全な方法を選択できる	A B C	A B C
	2	インシデント・アクシデント発生時に状況に応じて適切に対応し、報告できる	A B C	A B C
	3	自己のインシデントレポートから、自己の傾向を分析し行動できる	A B C	A B C
	4	緊急・災害発生時にマニュアルに基づいてリーダーシップを発揮できる	A B C	A B C
レベル毎の目標	看護実践と財務の視点を関連付けて考えることができる			
経営参画 (質の評価と業務改善)	1	5S活動を主体的に実施できる	A B C	A B C
	2	看護ケアの質の向上のために業務改善の提案ができる	A B C	A B C
	3	部署に関係している診療報酬がわかる(看護必要度や加算など)	A B C	A B C
レベル毎の目標	チーム全体が安全で効果的に業務を行うための調整・時間管理ができる			
時間管理	1	メンバー業務を把握し、効果的・効率的に業務が終了する様チーム内の調整ができる	A B C	A B C
レベル毎の目標	得られた情報をケアの受け手やその関係者と活用することができる			
情報管理	1	ケアの受け手に関する情報をチームメンバーと共有できる	A B C	A B C
	2	共有した情報を看護実践に活用できる	A B C	A B C
レベル毎の目標	自己の成長と仕事が円滑に進むことにより患者の利益につながることを理解する			
教育・研究能力	1	所属部署での看護実践に必要な専門的な知識・技術を高めることができる	A B C	A B C
	2	後輩に学習の支援ができる(所属部署の一般的な疾患について後輩に説明できる)(必要な知識・技術を習得できるように指導できる)	A B C	A B C
	3	自己の目指す方向性を意識して院内外の研修に参加し内容をメンバーに伝達できる	A B C	A B C
	4	看護業務上の課題を研究的視点で考えることができる(所属部署で行われる研究への協力・看護上の課題について書籍や先行文献の活用)	A B C	A B C
レベル毎の目標	自施設の組織人としての役割を自覚し行動する			
組織的役割遂行能力	1	自分の役割を理解し、周囲と協力しながら行動できる(自分の態度や言葉に責任を持ち、行動できる)	A B C	A B C
	2	看護界の動向に関心を持つことができる	A B C	A B C
	3	部署の目標達成に向けて行動できる	A B C	A B C
評価日:	年	月	日	